

平成 21 年
7 月 2 日

病害虫発生予報 7 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目 次 >

． 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水稲：いもち病(葉いもち), 斑点米カメムシ類 1

水稲：イネツトムシ 2

ナシ：黒星病 2

ナシ：ナシヒメシンクイ, ハマキムシ類, ハダニ類 3

果樹共通：カメムシ類(越冬世代成虫～第一世代成虫) 4

【その他の病害虫】 4

水稲, ナシ, ブドウ, カキ, クリ, 夏ネギ, 夏秋ナス, サツマイモ, 抑制トマト

． 病害虫ミニ情報

7 月以降に発生する水稲病害虫の防除について 6

． 今月の気象予報 7

． テレホンサービス 7

0 2 9 (2 2 6) 5 3 2 1

農薬登録速報については, 農林水産省ホームページ「農薬コーナー」
<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは, 病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は, ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1 . いもち病（葉いもち）

【予報内容】

発生時期	発 生 量	発生地域
-	やや多い	県下全域

【予報の根拠】

6月下旬現在，葉いもちの発生はやや多く，特に県南地域で多い。

6月中におけるいもち病の感染好適日（BLASTAM による）は，平年より少ない。

梅雨明けまでは平年と同様に，本病の発生に好適な条件である。

BLASTAM：アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム

【防除上注意すべき事項】

稲の葉色が濃い部分，置苗およびその周囲，水口などを観察し，初発の確認に努める。例年，梅雨明けまでは，発生が増加するため，現在発生がみられない水田でも，今後とも注意する。発生がみられる水田では，防除を実施する。なお，粒剤で防除する際は，必ず湛水状態で薬剤を散布し，薬剤の効果や環境への配慮から1週間は止水して，湛水状態を保つ。その後，生育に応じた適正な水管理にもどす。

置苗は，いもち病の発生源となる。現在，水田に置苗がある場合には，水田から持ち出して土中に埋める等の処分をする。

（P.6 病害虫ミニ情報参照）

2 . 斑点米カメムシ類

【予報内容】

発生時期	発 生 量	発生地域
やや早い	やや多い	県下全域

【予報の根拠】

6月下旬現在，水田付近のイネ科雑草において，クモヘリカメムシは確認されていない。しかし，斑点米カメムシ類全体ではすくい取り虫数が多く，発生地点率も高い。

水稲の生育は，県南地域（農業研究所水田利用研究室）でやや早い。

春先からの気温が全体として平年より高く経過しているため，カメムシ類の活動は早まっていると推定される。

【防除上注意すべき事項】

農道や畦畔等のイネ科雑草は，斑点米カメムシ類の生息場所となるため，除草を徹底する。ただし，出穂期近くになってからの除草は，カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので，水稲の出穂2週間前までに終わらせる。

出穂期～穂揃期に多数の斑点米カメムシ類を認めた場合は，防除を実施する。

（P.6 病害虫ミニ情報参照）

(水稲 続き)

3. イネツトムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並～やや早い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

6月下旬現在，平年よりやや多い発生である。

イネツトムシ第一世代幼虫のせ生育は，平年並からやや早い。

[防除上注意すべき事項]

葉色の濃い水田や，飼料稲では特に発生に注意する。

被害が大きくなる第二世代幼虫の発生は7月下旬からと考えられるので，7月末～8月初めに水田を観察し，幼虫が小さいうち（葉先が巻かれ始めた時期）に防除を行う。

(P.6 病害虫ミニ情報参照)

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	多い	県下全域

[予報の根拠]

6月下旬現在，発病果率は平年より高く，果実での発生地点率は，平年よりやや高い。

本病は，降雨により伝染するため，今後梅雨明けまでは黒星病の発生に好適な条件である。

[防除上注意すべき事項]

発病した葉及び果実は二次伝染源となるため，見つけ次第除去し，土中深く埋め，その後の薬剤防除を徹底する。

果実肥大最盛期は「幸水」果実への感染が特に盛んになるため，DMI 剤の散布を必ず実施する。本年はナシの生育および本病の発生経過が例年よりもやや早いため，DMI 剤の散布は例年よりも早期に行うよう心がける。

梅雨明けが遅いなど，7月下旬に降雨が多い場合は，果実への後期の感染を防ぐため，追加防除を行う。収穫前日数には十分注意する。

薬剤散布量は，10a 当たり 300 リットルを目安とし，かけむらのないよう丁寧に散布する。薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

薬剤耐性菌出現回避のため，DMI (EBI) 剤の年間使用回数は原則 3 回以内に抑えることが望ましい。

(平成 21 年 6 月 29 日発表の病害虫発生予察注意報第 2 号 参照)

(ナシ 続き)

2. ナシヒメシンクイ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
やや早い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

6月下旬現在，被害果は認めず平年並である。

フェロモントラップ（笠間市，土浦市）への第一世代成虫誘殺時期は平年よりやや早く，誘殺数は平年よりやや多い。

[防除上注意すべき事項]

被害果を見つけた場合は，土中深く埋めるなど速やかに処分して，次世代による被害を防ぐ。

薬剤防除は，次世代幼虫の発生初期にあたる7月中旬に実施する。

薬剤散布量は，10a当たり300リットルを目安にする。薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

3. ハマキムシ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

6月下旬現在，被害果は認めず平年並であるが，一部で葉にわずかに発生を認めている。

フェロモントラップ（笠間市）への越冬世代成虫誘殺数は，平年よりやや多い。

予察灯（かすみがうら市）への誘殺数は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

薬剤防除は，次世代幼虫の発生初期にあたる7月中旬に実施する。

徒長枝の多い圃場では，発生が多くなりやすいため，丁寧に薬剤散布を行う。

薬剤散布量は，10a当たり300リットルを目安にする。薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

4. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
-	平年並	県下全域

[予報の根拠]

6月下旬現在，発生は認めず平年並である。

[防除上注意すべき事項]

ハダニ類は，発生が多くなると防除が困難となるため，発生初期に防除を行う。

薬剤抵抗性ハダニ類の出現を避けるため，同一系統の薬剤の連用は避ける。

合成ピレスロイド系剤を散布すると，ハダニ類やカイガラムシ類が増加する場合がありますので，合成ピレスロイド系剤の散布回数は最小限に抑える。

果樹共通

1. カメムシ類（越冬世代成虫～第一世代成虫）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

6月下旬現在，被害果は認めず平年並である。

チャバネアオカメムシ成虫の予察灯(笠間市,かすみがうら市)への誘殺数は平年並である。本年2月の山林での越冬調査の結果，越冬虫は平年よりやや多く，本年はカメムシ類の主要な餌であるヒノキ球果の量も平年よりやや多いため，次世代の発生量はやや多くなると予想される。

[防除上注意すべき事項]

薬剤散布は，カメムシ類の活動が鈍い早朝に行う。

薬剤散布量は，10a 当たり 300 リットルを目安にし，かけむらのないよう丁寧に散布する。

7 月以降に発生する次世代成虫の活動状況については，今後の防除所の最新情報を確認し，防除の参考にする。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水 稲	紋枯病	発生量：平年並	稲の生育が軟弱になっていると，被害が大きくなるので注意する。
	稲こうじ病	発生量： -	穂ばらみ期～出穂期にかけて，低温で降雨が続くと発生が多い。常発地では防除を行う。
	縞葉枯病	発生量：平年並 ～やや多い	本病を媒介するヒメトビウンカの麦畑での発生は，平年並である。3 月におけるヒメトビウンカの保毒虫率は，県西地域の一部の地点で高かった。
		発生地域：県西地域	
	ニカメイガ	発生量：平年並	近年，発生量が増加傾向にある。現在，芯枯れの目立つ水田では，8 月上旬～中旬に防除を行う。 (P.6 病害虫ミニ情報参照)
ナシ	アブラムシ類	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。梅雨明け後，高温条件になると発生は減少する。
ブドウ	べと病	発生量：平年並	6月下旬現在，一部で葉及び果房での発生を認めた。
	晩腐病	発生量：平年並	6月下旬現在，発生を認めず平年並である。袋かけ前の防除を徹底する。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
カキ	落葉病類	発生量：平年並	6月下旬現在，発生を認めず平年並である。
クリ	モモノゴマダ ラノメイガ	発生量：平年並 ～やや多	6月下旬現在，予察灯（かすみがうら市）への誘殺数は，平年並～やや多い。 「神峰」は，モモノゴマダラノメイガの被害が発生しやすいので特に注意する。
夏ネギ	べと病	発生量：やや多い	6月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ネギハモグリバエ	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。
	ネギアザミウマ	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。
夏秋ナス	うどんこ病	発生量：やや多い	6月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ハダニ類	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。
	ミカンキイロアザミウマ	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。
	マメハモグリバエ	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。
サツマイモ	イモキバガ	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。
	ナカジロシタバ	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。
抑制トマト	黄化葉巻病	-	育苗時または定植時に粒剤を施用し，本病を媒介するタバココナジラミの初期防除を徹底する。なお粒剤は1ヶ月程度効果があるが，それ以後はタバココナジラミの発生状況をよく観察し，初期防除に努める。また，ハウスの開口部に0.4mm目合い以下の防虫ネットを設置し，タバココナジラミの侵入を防止する。

施設野菜の栽培終了後の管理について

コナジラミ類，アブラムシ類は，各種ウイルス病を媒介するので，ハウス外への飛散や次作への持ち込みを防止するため 株元を切断して1～2週間程度ハウスを密閉する蒸し込みを行う。

蒸し込み終了後は，作物残さのハウス外への持ち出しを徹底し，罹病残さからの各種病害の伝染を防止する。

7月以降に発生する水稲病害虫の防除について

水稲に発生する主要な病害虫には、いもち病、斑点米カメムシ類、イネツトムシなどがあり、いずれも十分な留意が必要です。

病害虫のおよその発生時期および防除時期を下記にします。年により発生時期・発生量が変動するので、水田をよく観察して病害虫の発生状況にあわせた効果的な防除を行って下さい。

発生消長と防除の概要

今年の発生状況および防除対策については、今月の予報「注意すべき病害虫」および予報8月号を参照して下さい。

- 1) いもち病：葉いもちは6月下旬から発生し始め、7月下旬にピークとなる。梅雨明けが遅い場合には病勢が進展し、出穂後に降雨が続いた場合は穂いもちが多くなる。穂いもちの防除は、穂ばらみ末期～穂揃期に行う。粒剤を使用する場合は出穂の10日前までに散布する。
- 2) 斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ）：出穂とともに成虫が飛来し、イネの葉や穂に産卵し、ふ化した幼虫が収穫期まで穂を加害する。防除は成虫が飛来する出穂期～穂揃期および幼虫が発生する乳熟期～糊熟期に行う。
- 3) イネツトムシ：幼虫は6月中旬～7月上旬および7月下旬～8月中旬に発生し、葉を食害する。7月下旬から発生する第2世代幼虫による被害が大きい。防除は7月末～8月はじめに行う。
- 4) ニカメイガ：第1世代幼虫による被害は心枯れ茎、第2世代幼虫による被害は白穂となって現われる。第2世代幼虫を対象とする防除は、8月上旬～中旬に行う。

水稲において近年問題となっている病害虫の発生と防除時期のめやす(7月以降)

	7月			8月			9月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
イネの生育				出穂	乳熟	糊熟		成熟	
発生消長と被害	いもち病		葉いもち発生ピーク	穂いもち感染時期					
	クモヘリカメムシ	イネ科雑草に生息		成虫飛来ピーク	幼虫発生期				
				多発水田では青立ち	玄米加害				
	イネツトムシ	第1世代幼虫		第2世代幼虫					
				食害のピーク					
ニカメイガ		第1世代幼虫			第2世代幼虫			ワラ、刈株内で幼虫越冬	
		心枯れ茎			白穂				
防除	葉いもち	乳剤等							
	穂いもち	粒剤		乳剤等					
	クモヘリカメムシ	イネ科雑草を除草		乳剤等	乳剤等				
	イネツトムシ		乳剤等						
	ニカメイガ				乳剤等				収穫終了後はワラをすき込む

注1) 防除時期は平年の発生をもとにしためやすなので、病害虫発生予報を参考に、水田をよく観察して防除を行う。

注2) 5月上中旬移植、中生品種の場合。

．今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 6月27日から7月26日)

気象庁(6月26日 発表)

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	40	30
降水量	関東甲信全域	30	40	30
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

< 1週目の予報 > 6月27日(土曜日)から7月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

< 2週目の予報 > 7月4日(土曜日)から7月10日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率ともに40%

< 3週目から4週目の予報 > 7月11日(土曜日)から7月24日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

．テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号：029(226)5321

7月上旬 ナシの黒星病およびトマト黄化葉巻病について

7月下旬 水稻のいもち病および斑点米カメムシ類の防除対策について

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。